

タイトル：震災から見えてきた地域づくり～3.11 その時、障害者は～ グループワークシート

【グループトークのテーマ】

1. 講師(的野氏・石野氏)の話聞き 感じたこと、考えたこと	2 地域の中で何ができるか、やったか。	3 その他
-----------------------------------	---------------------	-------

A グループ

<ul style="list-style-type: none"> ・便利すぎて、隣がわからない。学校もそう。避難拠点、連絡会と聴覚で避難訓練、年1回している。 ・地域がどこにどんな障害者がいるかわかっていて、いざという時に声を掛けてくれるような地域が良い。 ・高齢者もそう。見守りの体制が大事、どうするか。朝6時に雨戸が開いていなければ声かけて隣の人に声かけて、建物の中のコミュニケーションが大事。 ・両者が歩み寄らないといけない。 ・障害を隠す人、オープンにする人で差が出る。地域とふれあう機会という時に、大事だということ保護者に伝えている。 ・学校、運動会とか、地域の人が来てくれるような機会を作っている？→作っている。 ・全く知識のない人に障害者の理解してほしい。 ・町会の集まりに積極的に参加することで、障害をわかってもらっている。 ・障害者も自分のことを回りに伝えたり、知られたりするのが嫌な人もいる。難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いざとなった時に一緒になって理解する場合もある。 小さな福祉施設の方が早く復旧したこともあった。(現地) ・区民からボランティアしたいとか、物品もとという問合せが多かった。 学校としてメール配信システム作った。 3月11日以降メールの登録の件数が増えた。意識が向いた。訓練のやりかたも変えた。訓練も単独でなく、つながって。 避難拠点連絡会と名簿が連携できたら良いのね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日、4年以上全員がいた。グラウンドに避難、もう4時、いち早く保護者へ送り届けなければ！車発車。 ・自力、保護者迎えの人は待機。 ・保護者と連絡が取れない！不安。 ・教員も含め夜12時前まで全員帰宅できた。(他の都立は翌日の14時だった) ・備蓄はあったが、早くに親元に返したが方が良いと思った行動だったが止めておくことを考える方法に考え方を変えた。 ・子供たちの薬だけ用心。 ・地域住民の人との住み分けができるように。ういんぐとしては、泊まる場所はない、避難拠点へ、一緒に避難。 ・ちょうど当時、震災時、保護者との連絡どうするか周りの学校情報が入ってこない。→情報共有システムを。 ・災害時の避難場所として開けてよいか迷った。
---	--	---

B グループ

<ul style="list-style-type: none"> ・「何事もネットが必要」という的野氏の言葉が印象的(役所だけに頼らない、様々なシステム) ・行政から区民にお願いはできない。 ・地域の中で孤立している障害者や社会的弱者は支援者も中々気付けない。関わりのある人は気にできるけど、関わりのうすい人だと難しい。 ・「近所の人がいるから大丈夫だ」と思えるようになればいい。その様な地域の関係作りは必要。 ・宿泊体験に参加したが眠れなかった。子供が多かった。普通の大人の方は少なかった。 ・安否確認のネット上のシステム、活用されていない。 ・地震当時のことを思い出した。「すぐおさまるだろう」と思っていた。慣れは怖い。職員の防災・災害への意識を変えなければ。 ・自分で自分を守るためのシステムが必要なかもしれない。 ・自分達の利用者を優先して安否確認してしまう。そこで地域の人たちのことまでまわらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは地域住民に、事業所とそこの人たちを知ってもらう。 ・これからは「対利用者」ではなく、「対地域」として街づくりの視点から考えていく。 ・仕事として考えるのではなく、事業者・支援者も地域住民の1人として考えていきたい。 	
---	---	--

C グループ		
<p>・災害時、誰の状況もわからない(等しく) 日常の思いやりが出来てくることが地域にとって大事</p> <p>・昔近所が大火事に。「誰が中にいるか？」 →「入院中の足が悪い人がいる」よく知られてないため。近所づきあいがあるといいと感じた。</p> <p>・災害時知障作業所で勤務中→帰宅困難者になっていた家庭と連絡が取れ、隣近所宅に送迎する。日頃からご近所付き合いがあったことが幸いしたケース。</p> <p>・地域作りの一つとして小学生との挨拶とかからできる。</p> <p>・しばらくたってから実感できる。</p> <p>・町内会から試されている。本人もめんどろくさかったり、互いの歩み寄り難しい。</p> <p>・地域づくり。防災。障害の有無ではなく、孤立している若者多い。「田舎だったら秩序あったけど都会は大丈夫？」怖い。具体的に障害者が避災害時生活するための手段が必要。</p>	<p>避難訓練にきていた方も多かった。訓練の時から来ていれば、災害時にスムーズ。</p> <p>・情報手段、実際の災害時に防災無線あまり役にたたなかった。</p> <p>・「こんなのがあったらずいぶん違うこと」 →的場さんはありますか。めんどろく見のいい近所の人、昔はいた。今はいないとどうしようもなかいし、まだ特別扱い。遠慮がある。</p> <p>・「困ったこと」 あきらかに踏まえた上で計画、様々な年齢層から。</p> <p>・1人の利用者に6,7作業所から電話が行ってしまった。</p> <p>・仕事で視覚障害の方に関わっていたが、自己開示されない方だったため、震災当日安否取れなかった。「仕事の関わりの中でどこまで踏み込んでいいのかわからなかった」</p>	<p>自己開示をしないことが「スタッフ」と言っていられなくなる。</p> <p>「障害者自身も地域に入り込むことを考えて行かなければ、特別扱いしない」</p> <p>「ほっといてください」の高齢者も多い。両隣くらいまでは、知っておきたい。</p>

D グループ		
<p>・利用者、不安感を感じることで大きいと安心感与える方法は何だろう。自分には何ができたか答えは見つかっていない。</p> <p>・サービス充実してきて、普通の人と同じサービスになってきている。普通の人でも地域と関わりのない暮らしが出来ている。できてしまう。社会全体がつながり希薄なのは。</p>	<p>・自分は現場にいなかった。何が起きたか把握できていなかった。</p> <p>・家族と連絡がつかず、21時頃まで利用者が帰ることができなかった。</p> <p>・きららでは、拠点勉強会を開いた。</p> <p>・GHの防災用品購入。</p> <p>・町会にGHで加入、地域防災訓練参加する。</p> <p>こちら側から地域への働きかけ大事。自分達だけでなく近隣の人たちのことも。</p> <p>・会社5階、書類崩れてバラバラ。</p> <p>・難病、呼吸器、バッテリーなど東電から確保できるもの、できないものは確保に走った。</p> <p>・多種多様な利用者に応じた支援ができるか。</p> <p>・独居優先してスタッフは訪問しよう。</p> <p>・団地707(自分の家)、とりあえず扉を叩いて声をかけた。</p> <p>・作業所にいた、日頃の訓練の成果で利用者は机の下に入った。職員の方があわてた。</p> <p>サイロ鳴らせず、災害伝言ダイヤルも使っていたが、実際使えず。利用者1名止まった。5名20時まで、栄養士気をきかせ、うどん作って食べさせた。</p> <p>・すぐどうしなきゃいけないか「地域と連携」</p> <p>地域の中で施設をどう理解してもらえるか、日頃からの備え、考えが大切「障害の理解」</p>	<p>・長野旅行中、バスの中だったので全くわからなかった(私的)。東京で発災した時どうなのか、避難拠点移った時、利用者それぞれ大変か。2次拠点必要。親が拠点まで連れていかず、情報が入らないこともあるのでは。マニュアル(様々な想定)作り必要。</p> <p>・たまたま宿直明けで自宅にいた。入居者10人、常勤1人、7人のGHの中連絡取れた。3人連絡取れず、皆翌日帰ってきた。翌日以降、多少お物資不足はあったがまあ、大丈夫。</p> <p>・原発のニュースを見て「水」「放射能大丈夫？」不安になる人も。</p> <p>・他の障害の人と、どううまく避難拠点で関われるか。</p> <p>・「家族の自分」「社会の自分」同地内でどううまくやるか。</p> <p>・その日は休み、子が学校卒業するところ(大泉)、氷川台との面談の日、16時だったのであるのかないのかも分からない。たまたま夫もいた、手分けして自分は仕事場へ。</p> <p>・家族がいるスタッフはやはり、家族優先のなるか、独身は画ばりすぎてしまうか。</p> <p>・知的の人、見つけたら作業所帰ってしまうか。</p> <p>・障害あるから声を出さなければ、(自分には要支援者の家族であり、支援者である)。</p> <p>・「人間力」を身につけないと、それぞれの所で「助け合え」となるしかない。</p> <p>・根本ラインのマニュアルは機能しないか。</p> <p>・知的サービス、1人がどの事業所使っていない</p>

	地域へ向けて、より大事だと。	か、分からないケースも、でもそうも言っていないという働きかけにはなっている。
E グループ		
<ul style="list-style-type: none"> ・想定外はマニュアル化できない→どう対応するか。 ・地域で支える仕組み。 ・地域での取組みを知らない区民も多いのではないか。地域の取組みを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯に登録している人の安否確認を行った。 ・電車が動かないため、身動きがとれなかった。 ・就労している人、公衆電話の使い方、人があふれだしている状況、高層ビルで働いている人が怖くて逃げた等→困ったことを元にマニュアル化したい。このような時はどうするかという当事者向けのマニュアル。 ・通所途中で震災が起こったとき、どのような対応をとるか考える。 ・パニックになって外にでてきた利用者がいた。 ・居宅介護支援事業所のため、利用者の障害の程度が様々、→マニュアルが作れない。どのようなマニュアルを作るか悩んでいる。 ・計画停電→呼吸器使用の方への対応。「放射線を落としてから入ってくれ、との利用者にどう対応すればいいか。 ・災害だからと管理しすぎてしまうのもどうなのか、バランスを考えなくてはならない。 ・平常時、マニュアルについて説明していても実際の時にどのように対応できるか→訓練は必要。 ・通勤経路の避難所の確認。 ・防災グッズの整備。 ・施設利用者の家族との意見交換 メールボックス登録→伝言板の活用。 ・障害者用の避難場所が近くにあるのか。障害者の理解がどこまで進んでいるか。地域によりバラつきがある。必要ならば作っていかなくてはならない。 ・要支援者の名簿への登録。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災課のマニュアルが厚くなることに(労力をかけるのが)意味があるのか。

F グループ		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係がうすい。 ・制度に頼りすぎているのではないか。 ・地域でどうつながっているか、今後の課題だと思う。 ・区内の社会資源を始めて知った。そこに当事者をまじえて、考えていく必要性を感じた。シムをどうみがいていくかが大事。 ・勤務中の場合と家庭にいた場合と両方のことを考えた。 ・周囲の地域(和光市・朝霞市)との連携も大事ではないか。 ・人間1人では生活できない。企業とも手をつなぐ必要がある。 ・人とのつながりを改善していこうとしているが、便利すぎて人と話さなくて生活していける 	<ul style="list-style-type: none"> ・外にでて行くことで、自分の知らないことがわかったりする。他の障害のことも知ったり、教わったりする。 ・マンションの理事会で顔を合わせたのがきっかけで隣同士でおすそわけをしている。 ・味噌作りをきっかけに、高齢者が教えて、若い人が教わる。そこから仲間作りができる。 ・プレーパークの事例として、知人を通して遊びの企画に参加し、そこからつながりができていく。 ・光が丘福祉園は団地の中にある。地域住民の理解が得られにくい。まつりに来る人はいるが、つながりが出来ていかない。 	

<p>現代が今日危機を感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害名簿の登録については個人情報の問題や、そのことを知らない人たちへどう情報を届けるかが問題。 ・日頃、感じていたことを改めて思い知った。つながり方も企画していく必要がある。 ・障害に対する理解があまりない。日頃つながりがないと、いざという時にしにくい。 		
--	--	--

<p>G グループ</p> <p>①視覚障害の方がどういう気持ちになったのか、考えたことも聞いたこともなかった。考え方と変えていかなければと思った。コミュニケーションの取り方は難しい。誰かが声を掛け合わなければと思った。仕組みの部分も考えているが、家族に安否状況をいかに伝えるかブログ等で伝えている。家族会に園の方針を伝えている。親達の防災意識が強く施設内の倉庫を置いてある。震災前から。これだけ備蓄されているから園で面倒みなのな。</p> <p>②親たちに連絡が取れず、つながらず。3から4人スタッフで60名の親に電話。引き取り訓練をしている日頃から。近くのGに避難。引き取りの名簿題第一位の人に引き取ってもらう名簿がある、時間記入。施設内での震災で出不幸中の幸い。行方不明の人も出るのかも、状況によっては。利用者に対応力をつけてもらうにはどうしたら良いか。夜8時過ぎまで十数人いた。</p> <p>③視覚障害の方も自分達と同じく「地域におつながり」のなさの不安を感じているのだと聞いてわかった。</p>	<p>① 地域の小学校に知的への理解への知らせをした。(通学路で会うので)</p> <p>② まず、自分がどうなるか、家族はどうしたかの次に職場は？と気になったが電話通じず。葛藤あった。ジレマ(家と職場と)。自分の住んでいるマンション築1年、400戸なのだが、防災訓練したことなかった。上下横とのつながり状態を知っておいた方がよいと思った。安全に避難した目印の知らせも共有していない。障害のあるなしに関わらず、地域でのつながりの必要性を感じた。</p> <p>③ 各部門がどうしているかを考えた(社協の他部門)</p>	
--	---	--